dignity

For Adult Only

mechi

俺の策をもって、難攻不落の〝竜のへそ〟を攻略したのが2ヶ月前のこと。
三百年にわたり攻めあぐねていた南国の首都の陥落を目前に、我が国が早くも戦勝モードに沸いていたのは、長らく、俺が生まれる遥か昔から南国問題は我が国の最重要事案であり、歴代の王達の悩みの種だったからだ。
そして、先日。
王はアロという名の奴隷男を一人、後宮に召し抱えた。後宮どころではない。公務や夜を除いて常に、食事や休息、風呂、娯楽などの息抜きの際には、宦官の側近達よりも王の側に侍るようになった奴隷は、内廷（王族の私生活の場）でもよく見ることができた。
俺は、その奴隷を知っていた。
その美しい男は、〝竜のへそ〟にいた南国兵で捕虜として囚われ、例に漏れず去勢された。
言うまでもなく、去勢男でなければ後宮には入れない。飾り付けられ、化粧を施され、蜉蝣の羽のような薄布を幾枚か重ねただけの衣（遊女や踊り子が着るようなやつだ）を着せられたアロは、宦官揃いの高官達はともかく、そうではない官吏や文官、武官に兵達、下郎まで、あらゆる男共の好奇の目に晒された。
後宮で、王は気が向けばアロを〝かわいがった〟。
王はもちろん王妃や妃、妾達との時間を持つが、基本的に夜に、それぞれの館でに限る。
主に風呂で、庭で、応接宮で、食堂で、遊戯場や離れで。時と場所を選ばず、人目も憚らず王に〝奉仕〟させられる奴隷男の話は、口軽で噂好きな女官づてに宮廷の隅々にまで知れ渡れば、アロはますます注目を集めた。
しかし、その奴隷には触れることも、言葉をひとつ交わすことも許されない。
南国侵攻の〝戦利品〟であり、念願の勝利とゆくゆくの支配の〝象徴〟であり、王の力を誇示する〝国宝〟同様、珠のように磨き上げられたアロは、最も低い身分でありながら実質王に次ぐ身分でもある〝聖域〟だっ